

9 工業 江戸時代末期以降、青錆の生産地であったが、大正以降、被服・足袋生産に
かわり、電気裁断機等の導入により学生服が大量に生産された。第2次世界大
戦中は全工場が軍需被服工場に転換され、工場規模も膨張した。

昭和26年衣料統制が解除になり、被服不足を機に衣料産業は急速に発展し
た。被服産業の他に酒・塩化ビニールパルプ・燃糸・農機具・ブレーキライニ
ング・合成樹脂成型品・ねじ等の諸工業に加え、首都消費市場を距離に持つと
いう立地条件を生かし、大沼・小松台工業団地の造成を行い企業誘致に努めた
結果、生産額は大巾な伸びを示し2,828億円をあげている。